

より密接な地域医療連携をめざして

# 地域医療連携室

Office of Community

だより

2017 VOL. 11

## 室長挨拶

### 地域医療連携室室長就任にあたって

このたび平成29年4月より、小林浩先生の後任として地域医療連携室長を務めさせて頂くことになりました。消化器・内分泌代謝内科の吉治仁志です。

地域医療連携室は平成19年度に開設され、看護師、医療ソーシャル・ワーカー、事務等からなる地域医療連携室メンバーが多くの方と協力しながら日々変化する医療情勢に対応すべく多方面にわたる活動を行ってまいりました。

2014年に策定された地域医療構想に基づき医療のあり方が奈良県においても今後大きく変わっていくなかで、病診連携、病病連携を含めた地域医療連携はこれまでも増して奈良県全体の医療にとって非常に重要な課題となっています。奈良県におけるターミナルホスピタルである当院と各医療機関による連携システムが円滑に運用されることは、県民にとって「住んでいる地域で安心して医療を受けられる」という大きなメリットに繋がります。団塊の世代が75歳を迎える、いわゆる2025年問題が現実の問題として迫るなか、医療と介護の役割分担など地域連携体制の役割はますます重要になると思われまます。

地域医療連携室では、初診紹介患者の予約をはじめ、外来患者逆紹介、後方連携支援、退院支援、往診支援、地域連携パスの運用など多くの活動を日々改良しながら進めています。これからも地域医療のため県民一人一人に対してしっかりと対応しながら、連携先の先生、コメディカル、事務の方々など地域医療連携に関係する全ての方と共に更なる充実を図っていきたいと考えております。引き続きご協力、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

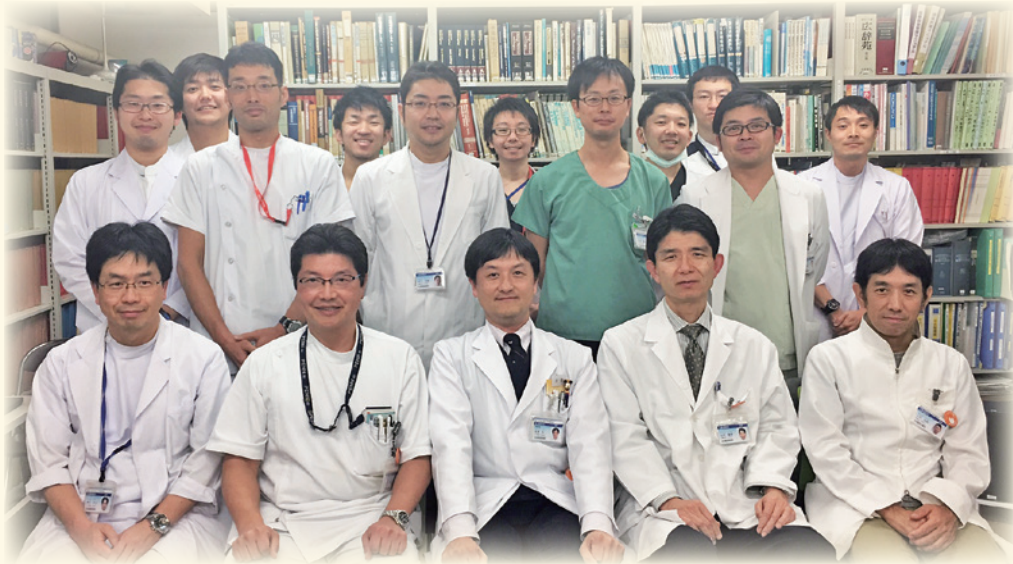


地域医療連携室室長

吉治 仁志

## 診療科紹介

## 耳鼻咽喉・頭頸部外科／めまいセンター



平素は多くの患者様を紹介していただき、また転院の受け入れなどお世話になりありがとうございます。当科は耳鼻咽喉・頭頸部外科として外来診療、入院診療を行ってまいりましたが、平成28年5月にはめまいセンターも開設され、めまいに関わる精査、診断を短期間で行う検査入院も行っています。

外来診療では耳科・神経耳科外来、めまい・耳科手術外来、難聴外来、補聴外来、小児難聴外来、耳鳴外来、顔面神経外来、鼻副鼻腔・アレルギー外来、腫瘍外来、音声外来の専門外来に細分化し、診療を行っています。手術治療は耳疾患では主にメニエール病、慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎、耳硬化症などに対する手術、感音難聴に対する人工内耳の手術を行っています。人工内耳については成人だけでなく小児に対しても行っており、人工内耳装用児の言語学習については奈良県立ろう学校と連携して行っています。

鼻疾患については内視鏡下鼻副鼻腔手術を、ナビゲーションシステムを用いることで

より安全に、より効果的な手術を実施しています。頭頸部領域については、がん拠点病院として積極的な治療に取り組んでいます。手術件数は一昨年度と比較して昨年度は大幅に増加し、昨年度からは手術枠を増加していただくことで対応しています。また救急医療については県内で耳鼻咽喉科疾患の救急医療および緊急手術に対応できる施設は限られており、大学病院として重傷症例については積極的に受け入れ治療しております。

今後も県内の拠点病院としての責務を果たすべく努力してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



## 消化器・内分泌代謝内科



平素より多くの貴重な症例をご紹介いただき、誠に有難うございます。私どもは、奈良県における中核病院としての役割を果たすと共に、地域医療にできるだけ貢献することを目標にしております。

当科の担当領域は消化器（肝胆膵・消化管）疾患・内分泌疾患・糖尿病等の代謝性疾患であり、年間約40,000名の外来患者さん、1,300名以上の入院患者さんの診療を関連病院や院内の関連各科との密接な連携のもとで行っています。

腹痛や吐下血などの急性腹症に対しては、重症腹症救急患者受け入れネットワークを介し先生方からのご依頼を全例受け入れることを基本的方針としており、肝疾患に関しては、各種新規薬剤の治験を含めた最新治療を提供しています。例えばC型肝炎では、個々の患者さんの肝臓の状態やC型肝炎ウイルスの薬剤耐性についての詳細な検討により最も適した治療法を選択し、ご紹介頂いた先生方との病診連携のもと診療しています。既にC型肝炎硬変に進展している場合でも、治験薬も含めた経口抗ウイルス薬での治療が可能な場合がありますので、一度ご紹介頂ければ幸いです。

近年、患者数が増加している非アルコール脂肪肝炎（NASH）に関しても、背景にある

生活習慣病は引き続き主治医の先生に診て頂き、当科では肝病態の進展予防について最新の知見に基づいた診療を行っています。糖尿病患者の死因は、NASHなどを背景とした肝疾患によるものが多いことが日本における疫学調査でわかりました。糖尿病の患者さんで肝機能障害があり、脂肪肝を有する場合はNASHの可能性があるので、是非、一度当科に紹介して頂ければ幸いです。また、自己免疫性肝炎や原発性胆汁性胆管炎などの自己免疫性肝疾患は全国有数の症例経験を誇っており、個々の病態に応じたきめ細やかな診療を行っております。肝硬変に関しても、胃食道静脈瘤に対する内視鏡治療や、腹水に対する腹水濾過濃縮再静注法など専門的治療を積極的に行っています。肝細胞癌に対しては、消化器外科や放射線科、放射線治療科との院内カンファレンスにおいて治療方針を決定しています。当科では、ラジオ波焼灼療法を年間100例以上行っており、また、分子標的薬による治療も多数行っています。

近年、消化管・胆膵疾患の腫瘍性疾患に対しては病期（stage）に関わらず可能な限り病理学的診断を行った後に治療法を決定することが推奨されており、当科では上下部消化管内視鏡、ERCP 関連手技や超音波内視鏡下

穿刺吸引細胞診などで、消化管・胆膵疾患の腫瘍性疾患に対して病理学的診断を行っています。また各種画像検査にて病期を速やかに判定し、関連各科との綿密な連携のもと治療方針を決定しております。早期食道癌や早期胃癌に対しては、年間150例以上の内視鏡的治療を行っており、悪性胆道狭窄には内視鏡的ドレナージ術を速やかに施行しております。手術不能進行癌に対しては、最新のエビデンスに基づいた化学療法を行っています。総胆管結石やアカラシア等の良性疾患に対する内視鏡的治療も精力的に行っています。潰瘍性大腸炎やクローン病等の炎症性腸疾患も生物学的製剤を含めた的確な治療を消化器外科と連携を取りながら診療を行っています。

尚、内分泌代謝領域疾患では、内分泌専門医・糖尿病専門医が、甲状腺機能異常や糖尿病・小児の成長障害などに対して各種負荷試験も含めた診断を行い、治療を行っています。

いずれの場合も、生活習慣病など普段の通院治療はご紹介元で継続して頂き、大学病院では必要な診療のみ当科で行います。今後、貴施設で消化管や肝胆膵領域において精査加療が必要な症例がございましたら、まず当科にご紹介頂ければ幸いです。これからも、積極的な病診連携のもと診療を進めていきたいと考えておりますので、当院地域連携室を介して御気軽にお声をかけて頂きますようお願い申し上げます。

## 第12回 地域医療連携懇話会 開催報告



平成29年2月12日(日)、奈良県立医科大学大講堂にて、第12回地域医療連携懇話会を開催し、医師・看護師等の多職種約140名が参加しました。

2018年度に介護報酬・診療報酬の同時改定、第7次医療計画・第7期介護保険事業(支援)計画・第3期医療費適正化計画が実施されることから、国や奈良県での地域医療構想・地域医療計画の策定に検討会・審議会の委員として直接携わっておられる奈良県立医科大学公衆衛生学講座の今村知明教授に「地域医療構想・地域医療計画と地域包括ケア」をテーマに講演いただきました。講演後、総括討議に移り、奈良県立医科大学附属病院地域医療連携室の小林浩室長が座長になり、今村教授、会場の参加者と活発な意見交換を行いました。

### アンケート

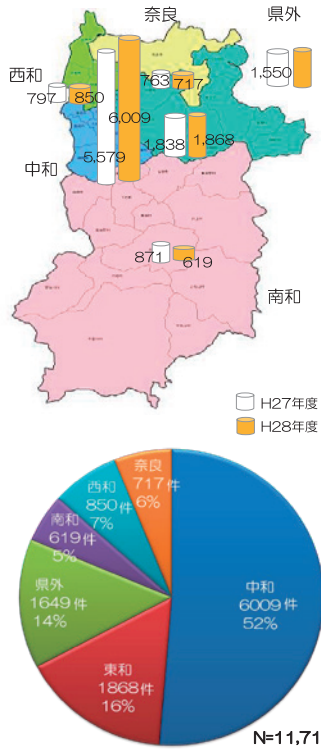
- 具体的な医療構想、日本の将来像が理解できた。
- 自分の病院の立ち位置を見据えて方向性を判断できるデータをいただいた。
- 地域で役割分担して相互に支え合い、地域を創る必要性を再認識した。
- 医療連携を進めていくうえで、医療と介護の両方をマネジメントしていける人材育成が大切であると認識した。



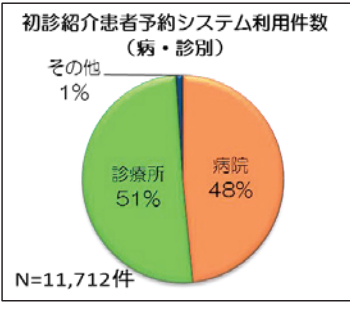
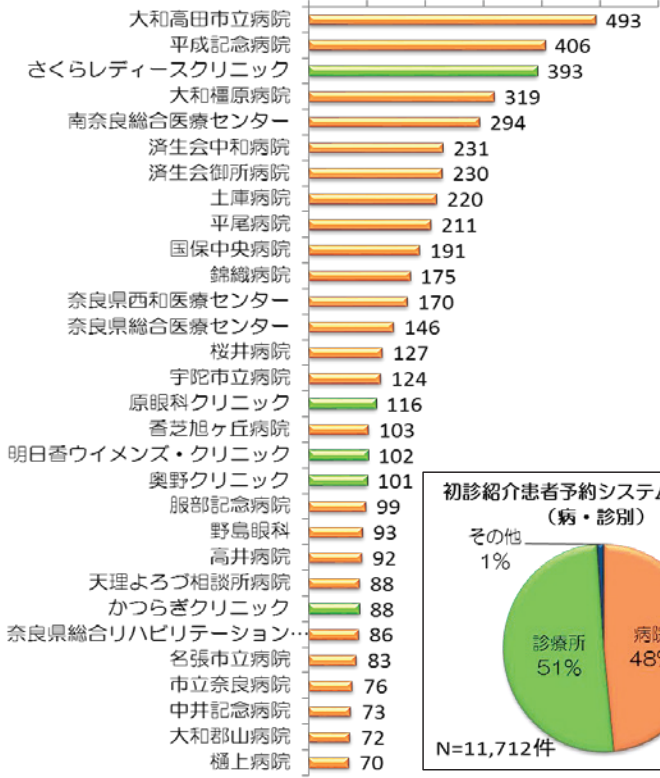
# 平成 28 年度実績

## 初診紹介患者予約実績

初診紹介患者の予約システム利用状況 (紹介元医療機関医療圏別)

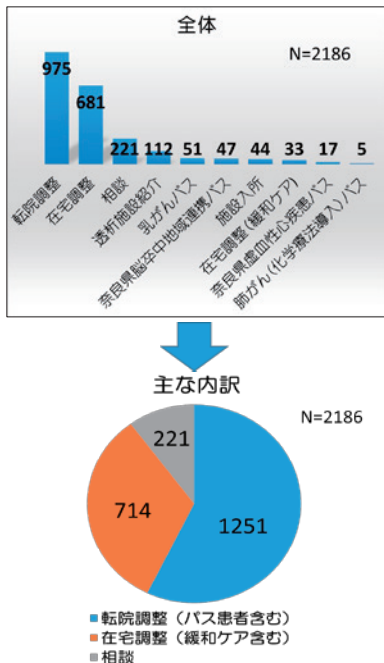


医療機関別 初診紹介患者予約システム利用状況

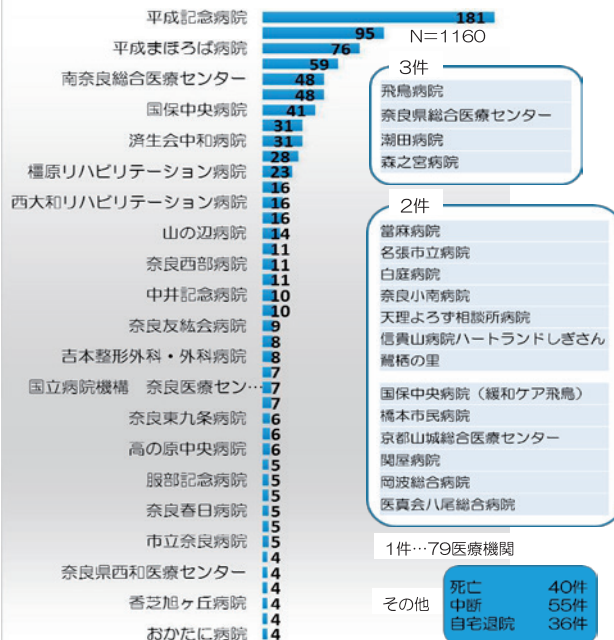


## 退院調整実績

退院支援内訳



転院調整連携医療機関



初診  
紹介患者

のオンライン予約システムを充実!!



ご利用  
ください!



「夜診の時間帯にも予約対応をしてほしい」「予約枠の確認をしたい」等のご意見を頂き、オンライン予約システム

地域医療連携サービス『C@RNA Connect』を  
導入いたしました。

「24時間」「365日」いつでも、初診診療予約ができます。

紹介患者さんにぜひご利用ください。

外来患者数は1日平均2,000人を超え、患者さんの待ち時間による負担軽減のためにも、事前予約へのご理解とご協力をお願いいたします。

ご利用には事前のユーザー登録が必要です。

詳細は、別刷りをご確認ください。



## 奈良医大地域医療連携室の体制

医療機関の皆様との連携をより一層強めていくために、当室の組織の充実を図っています。

退院調整係に4月1日付けで、新たに看護師4名と社会福祉士4名の計8名が着任し、係は看護師6名、社会福祉士8名の14人体制となりました。

医療機関連携係（初診紹介予約受付等を担当）とあわせると、当室の人員は、室長（医師）、室長補佐（事務）、連携コーディネータ（看護師）、看護師6名、社会福祉士8名、事務6名の計23名となります。

職員一同、業務を通して、皆様方との連携に努めてまいりますので、今後とも、ご協力・ご支援を賜りますようお願いいたします。

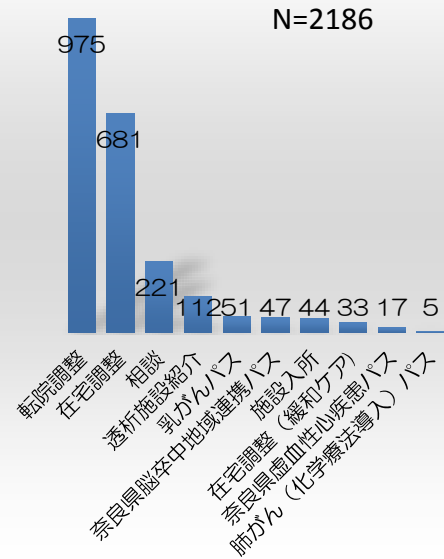


奈良県立医科大学附属病院 地域医療連携室 〒634-8522 奈良県橿原市四条町840  
TEL: 0744-22-3051 (代) / 0744-29-8022 (直通) FAX: 0744-23-9923

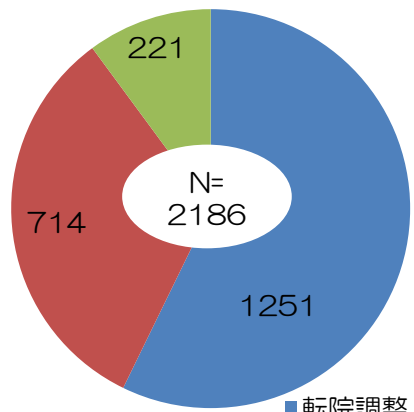
# 平成28年度 退院支援内訳

# 平成28年度 転院調整連携医療機関

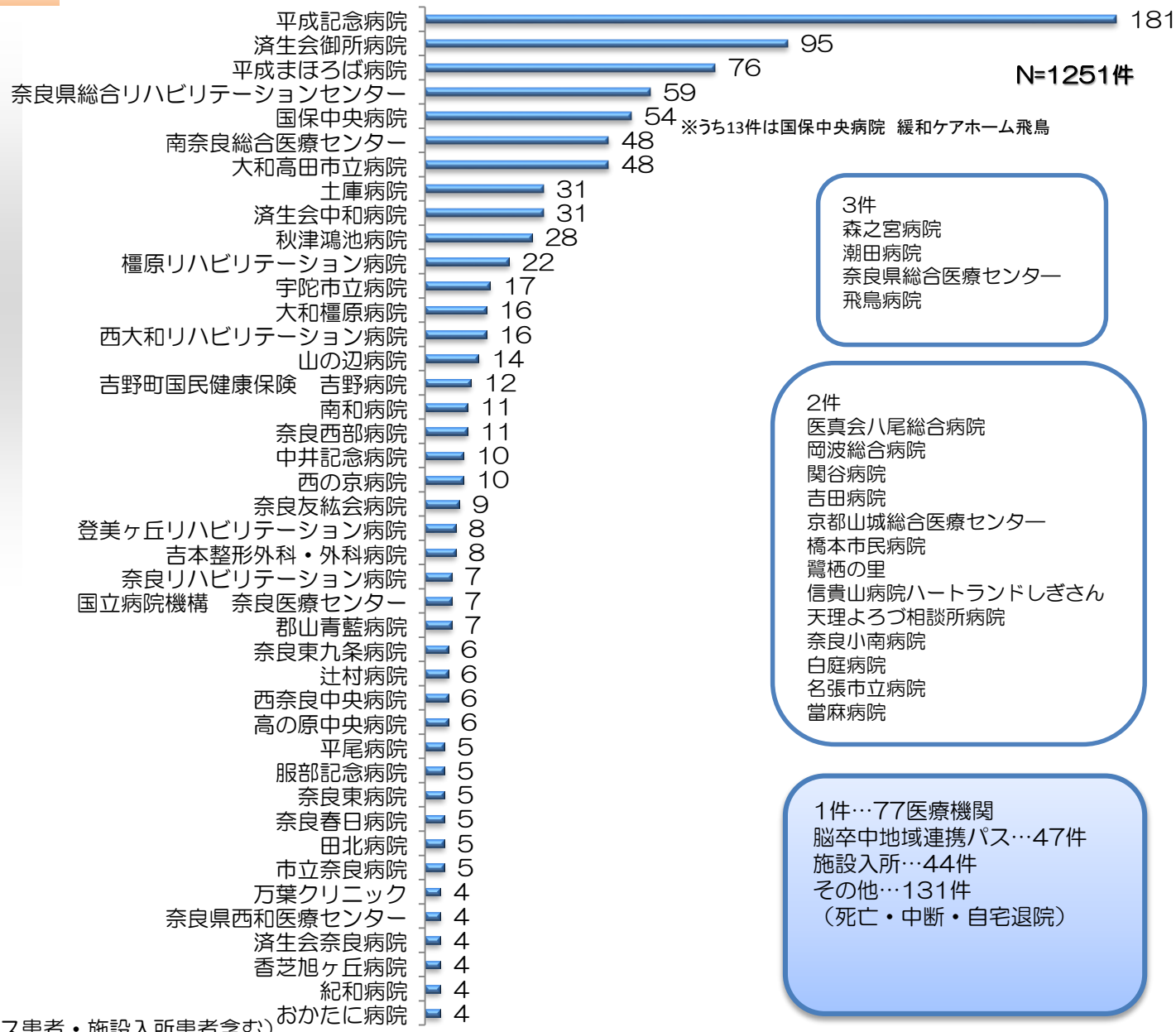
全体



主な内訳



■ 転院調整 (パス患者・施設入所患者含む)  
 ■ 在宅調整 (緩和ケア含む)  
 ■ 相談



N=1251件

※うち13件は国保中央病院 緩和ケアホーム飛鳥

3件  
 森之宮病院  
 潮田病院  
 奈良県総合医療センター  
 飛鳥病院

2件  
 医真会八尾総合病院  
 岡波総合病院  
 関谷病院  
 吉田病院  
 京都山城総合医療センター  
 橋本市民病院  
 鷺栖の里  
 信貴山病院ハートランドしぎさん  
 天理よろづ相談所病院  
 奈良小南病院  
 白庭病院  
 名張市立病院  
 當麻病院

1件…77医療機関  
 脳卒中地域連携パス…47件  
 施設入所…44件  
 その他…131件  
 (死亡・中断・自宅退院)

「地域医療連携室だより VOL.11」にて退院調整実績として同グラフを掲載致しましたが、グラフ内に一部医療機関名が表記されていないものがありましたので、再計させていただきました。  
 2017.07.19 奈良県立医科大学附属病院 地域医療連携室